

株式会社 若草印刷

●代表者/代表取締役社長 田村 英三 ●創業/1964年 ●従業員数/162名
●所在地/群馬県富岡市黒川710-1 ●URL/www.wakakusa.ne.jp

データ一元化で効率向上 あらゆるトラブルが減る



田村社長

「総合印刷システムによる情報文化への貢献」をモットーに(株)若草印刷は、今年で創業52年と半世紀を印刷業として邁進し、安定した品質とスムーズな納期、良心的な価格を一貫したシステムで顧客の信頼に込めている。現在では、本社工場を中心として東京都、沖縄県に営業所を展開、従業員数は160人を超える。さらに安定した品質、納期に対応するシステムとして、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズの「XMF Complete」「XMF Remote」を導入、制作データの一元化で効率化を図っている。

「XMF Complete」「XMF Remote」を導入したのは4年前。当時、同社のプリプレス部門は様々

なメーカーのシステムが混在しており、トラブル発生時などは、原因分析に無駄な時間を取られていた。そこで、システム更新時に現場の生産性向上を最優先に考え、1社のメーカーに任せることを前提に新システム導入を検討したという。アフター面やグループとの連携などを考慮し、ワークフローシステム「XMF」の採用に至ったという。

「今までのシステムではカンパ出力とCTP出力の作業は分断されていたが、この作業が一元化されただけでも価値が大きかった。XMFを導入して、プリプレスの前後にも対応でき、お客様との校正のやり取りでトラブルや手間が省かれた。今まで変えられないと



遠隔地の顧客ともスムーズにやりとりが出来る

思っていたところを変えられた」と田村社長は導入の効果を話す。

データのやり取り、プルーフ、CTPといったあらゆる出力が一元化されたことで効率が非常に上がったというのである。加えて制作に関わる種々のトラブルが減ったことも大きいようだ。

現在では顧客との校正は「XMF Remote」を活用しており、遠隔地の顧客でも伝達が楽になり、それによって従業員一人ひとりの負荷も少なくなった。また、「XMF Remote」の活用を提案された顧客も、その簡便さに「いいね」と評価し、互いの時間制約も減少するなど顧客にもメリットが出ている。今では、この仕組みを積極的に利用し、校正紙レスでの運用を実現している顧客もいるという。「当社の営業は十数名だが、お客様は500社にもおよぶ。このデジタル校正の仕組みがあってこそ、少数精鋭の営業で業務を遂行できる」と田村社長。

また、「XMF Remote」を活用することで、ミスも減ったという。今までPDFやファクシミリなどで校正を受け渡ししていたが、人が介在するため送り間違いなどのトラブルが避けられなかったのだが、「XMF Remote」を活用することで、そういったミスがなくなり、かつ校正のやり取り作業が楽になった。結果的に、品質向上や顧客とのコミュニケーションに力をか

けられるようにもなったという。

同社は沖縄県にも営業所を置いているが、遠く離れた沖縄と本社（群馬）で「XMF Complete」「XMF Remote」を使用している。XMFをセンターRIPとして運用することで、沖縄と本社で同じことができるような環境を整えているという。沖縄と本社でまったく同じフローで運用できているので、本社で新たに組み込んだ改善ルールをすぐに沖縄メンバーにも徹底するなど、お互いのよいところを取り入れる仕組みができています。また、繁忙期にそれぞれで作業分担することもできるという。「XMF Complete」「XMF Remote」を導入して社内のコミュニケーションが良くなり、仕事の状況などの情報が部署全体、さらには社全体で把握できる情報のオープン化、情報共有が一層できるようになり、社内のモチベーションも上がったのである。

このように「XMF」の導入でミスの低減、情報共有、効率化などが図れるようになった同社では、今後は沖縄県名護市に開設した営業所の強化を考えている。「社内の目標の一つが原価低減とミスをなくすことがある。XMFをさらに駆使して原価を低減することで、従業員の収入増につなげたい」と田村社長は語った。